

矛

盾

事務局 埼玉大学理学部数学科 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255

会誌編集委員会

同窓会発足する

去る7月5日(土)に埼玉大学学生会館3階会議室において、「埼玉大学数学科同窓会設立総会」が開かれた。数学科同窓会準備会の都築正信(文理学部第10期生)より設立総会に至る経過報告がされた。ついで、五十数名の参加者により、規約案の審議に入った。活発な意見・提案がなされ一部修正が加えられ、「埼玉大学理学部数学科同窓会規約」が満場一致で採択され、同窓会の発足が承認された。

引き続き役員を選出がなされ、光道隆(理工学部第1期生)が会長に選ばれた。他、副会長・理事・監事・事務局長などが選出された。



会長挨拶の後規約に伴う付帯決議が4件なされ、総会は無事終了した。

同窓会発足趣意書(要約)

埼玉大学も国立大学法人化により今年4月より法人化されました。これに伴い大学では、諸種の改革や新事業が行われようとしています。その一環として一昨年以来、埼玉大学全体の同窓会を立ち上げる構想が大学内で起こり、昨年12月6日、埼玉大学5学部(教養学部・教育学部・経済学部・理学部・工学部)の学部同窓会連合会として埼玉大学同窓会連合会が組織されました。またこれと並行して、昨年7月28日に理学部同窓会が発足しました。理学部同窓会は理学部5学科のそれぞれの同窓会の連合体という形式を取っております。数学科以外の4学科はすでに同窓会の組織を持っていますが、数学科には同窓会は存在しませんでした。

埼玉大学で数学の卒業生(約1500名)を出して以来50年を経過した事を踏まえ、この際、数学科の同窓会を設立すべきだと勘案しました。同窓生が時には相集い、旧交を温め、新しい交誼の機会を得ることも大きな喜びと存じます。

以上のような経過の下で、有志が集まり、数学科同窓会設立準備会を設け、会合を重ね、数学科同窓会設立総会を開催する運びとなりました。

(文責 都築)

懇親会開かれる

7月5日(土)午後4時より、同学生会館2階「きやら亭」にて懇親会が開催された。

数学科学科長の福井敏純先生や、埼玉大学名誉教授の辻岡邦夫先生にも参加いただいた。文理学部の思い出話や、名物教授のエピソード・最近の学生気質などを披露しながら、楽しいひと時を過ごすことができた。

次回は4年後ということで再開を約束し、懇親会を終了した。



役員

総会により次の役員が選出された。

会長 光道隆(理工第1期)

副会長 佐藤義隆(理工第2期), 木内博文(理第6期)

理事 都築正信(文理第10期), 新井理生(文理第13期)

谷川正樹(理工第4期), 鳥井新人(理第1期), 川浦美佐子(理第6期), 渡辺祐子(理第6期), 後藤亨(理第7期), 中山功(理第17期), 山口恵史(理第22期)

監事 鶴沢正勝(文理第10期), 盛岡光雄(理工第4期)

(会計) 中山功(理第17期)

(事務局) 新井理生(文理第13期)

埼玉大学理学部数学科同窓会規約

第1章 総則

第1条（名称） 本会は「埼玉大学理学部数学科同窓会」と称する。

第2条（目的） 本会は会員相互の親睦を図るとともに母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条（事業） 本会は前条の目的を達成するため名簿の作成、その他必要な事業を行う。

第2章 会員

第4条（会員） 本会は正会員、特別会員、賛助会員をもって構成する。

1.正会員は埼玉大学文理学部理学科数学専攻、理工、理の各学部数学科および同大学院理学、理工学研究科の数学専攻に在籍した者。

2.特別会員は、同数学科、数学専攻の専任の現教員、および専任の教員であった者。ただし正会員である者は除く。

3.賛助会員は、第2条の目的に賛同し入会を希望し、理事会の承認を得た者。

第3章 役員

第5条（役員） 本会に下記の役員を置く。

1.会長 1名 2.副会長 2名

3.理事 各学次若干名 4.監事 2名

第6条（選出） 役員を選出は、次のとおりとする。

1.会長および副会長は、総会において会員の互選により正会員の中から選出する。

2.理事は、総会において会員の互選により正会員の中から選出する。理事は、原則として各卒業年次ごとに少なくとも1名選出する。

3.監事は、総会において会員の互選により正会員の中から選出する。

第7条（任期） 役員は任期は4年とし、再任を妨げない。

第8条（任務） 役員は任務は、次のとおりとする。

1.会長は、本会を代表する。副会長は会長を補佐し、会長に支障があるとき、これを代行する。

2.理事は、理事会を構成し、会務の重要事項を審議する。

3.監事は、本会資産の状況と会計を監査し、総会で承認を受けるものとする。

第4章 会議

第9条（会議） 本会に次の会議を置く。

1.総会 2.理事会

第10条（総会） 1.総会は、全会員で構成され、定時総会および臨時総会を置く。

2.定時総会は4年に1回、会長が招集する。臨時総会は会長が

認めるとき招集する。

3.総会は本会の総意を決定する。

4.総会は、理事会から前回以後の活動の報告を受けなければならない。

5.総会は、監事から前回以後の監査の報告を受けなければならない。

第11条（理事会） 1.理事会は、会長、副会長、理事で構成される。

2.理事会の招集は会長が行う。

3.理事会は会員名簿の作成、管理、事業計画、執行等の業務を行う。

4.理事会は特別な事業を行うために委員会を設けることができる。

第12条（議決） 各会議において議決は出席者の過半数の同意による。

第5章 会計

第13条（経費） 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入による。

第14条（会費） 正会員および賛助会員は会費を納入する。会費の額、納入時期は総会で決定する。

第15条（報告） 会計は監事の監査を経て、総会において報告されねばならない。

第6章 事務局

第16条（事務局） 本会は事務局を埼玉大学理学部数学科に置く。

第17条（会員の消息） 会員は、その氏名、住所、職業、勤務先を変更したときは、事務局に連絡するものとする。

第7章 付則

第18条（規約成立） 本規約の成立は平成16年7月5日とする。

第19条（規約改正） 本規約の改正は、総会で行う。

規約に伴う付帯決議

1) 総会は4年ごとに開催する。

2) 同窓会の維持、運営のために会費を集める。

新規卒業生である正会員は卒業時に6千円を納入し、終身会員となる。

既卒業生は今回の寄付金を会費に当て、4年ごとに2千円を納入し、合計6千円に達した時点で終身会員となる。

3) 同窓会は会報を発行し、会員に配布する。会報の名称を「矛盾」とする。会報の発行時期は総会后、その他とする。

4) 現理事以外に広く理事を募る。新理事の選任は理事会に一任する

以上決議された。

会長挨拶

理工学部第1期生 光 道隆

私が入学したのは約40年前、ビートルズがハッピー姿で飛行機から現れ大騒ぎをした、そんな時代でした。入学手続きのため北浦和から理工学部に来てみますと、そこには建物がぽつんぽつんと建っているだけのぬかるみだらけの場所でした。それが、現在は木々も大きく成長し、いかにも大学という容貌に変わっておりました。



学生時代、特に印象に残っているのは、1年のとき高木貞治先生の「解析概論」を輪講したことです。今でも、ぼろぼろになった「解析概論」の書き込みをみますと、北浦和駅前にあった古い文理学部の校舎で、黒板の前を歩き来しながら、噴出す汗を手ぬぐいで拭き拭き、懇切丁寧に教えてくださった、先輩の方々の姿が目には浮かびます。

先輩が下級生の輪講を世話するというのは文理学部の伝統だったのでしょうか。おかげで、数学に対する興味がいつそう増したのを覚えています。

芽吹いたばかりの同窓会という苗木を、皆様の協力を得て、現在の埼玉大学の大きな木々のように、同窓生の憩う場所となれる、先輩が私たちにしてくださったように、後輩たちの力になれる、そのような木々に育てていきたいと思っております。

や会社勤めの方が多いと推察するが、同窓会はそういった人々をつなぐ一つのチャンネルとして機能する可能性がある。卒業して新たに就業したばかりの人は、仕事に慣れるのに一生懸命だろうし、20年前の卒業生は現役第一線で活躍中であろう。40年以上前の卒業生はそろそろ退職して悠々自適をと考えるだろう。そういったいろいろな卒業生の間を取り持つのも同窓会の一つの役割だろう。同窓会で集まれば懐かしい人に会え、知らない同士も「同じ埼玉大学数学科を卒業した」という事実が呪文の様に利いて、そこに新たな人間関係ができる、同窓会はそういうものであってほしい。

2004年4月より国立大学は国立大学法人となり、すべての国立大学は法人格をもつ事となった。それに伴う種々の変更により埼玉大学は喘いでいるように見える。昨年度と国からの交付金の総額は変わらないのだが、法人格をもつために生じる義務、年金や健康保険、雇用保険の雇用者側の掛け金、銀行を利用する際の手数料等々が新たに発生し、大学の財政は苦しい。学科として教育や研究に費やせる費目、俗に言う研究費、が削減されていくのを、私は現在目の当たりにしている。そして学科長としてその対応に追われている。国立大学に法人格を持たせるというアイデアは、税金を節約するために考え出されたものであり、これらは国の財政を助ける為であると考えられる事は出来ても、当事者としては切ないものがある。

近年18歳人口は急減し、2007年には大学進学希望者総数と大学入学定員の総和がほぼ同じになると聞いている。そのような情勢の下、今後、大学の存在の意味が問われる場面もでてくると思われる。大学の意味はまず卒業生が社会で活躍する事により証明される。大学で培った能力を社会に役立てたと評価できるからである。同窓会が、卒業生の活動を間接的にも支援するものになっていければ、こんなに望ましいことはない。

同窓会に乾杯！

題字について

「矛盾」の題字は、旧文理学部白石早出雄教授(故人)の書です。今でも数学科図書室に名簿が残っているそうです。総会で「矛盾」と名付けられた歴史が明らかになりました。当時のテキストをお持ちの方は事務局にお知らせ願います。

来賓挨拶

理学部数学科の同窓会設立に寄せて

数学科長 福井 敏純

同窓会を何のために設立するか？同窓会はずっと同窓生のためのものである。同窓会は同窓生の交流の場であり、同窓生の活動を側面から支えるものというのが自然である。埼玉大学は、戦後、新制大学として発足してから50年がたち、埼玉大学の卒業生はいろいろな分野で活躍している。数学科の卒業生は教員

同窓生雑感

埼玉大学文理学部理学科

数学専攻課程の頃

文理学部第5期生 太田 昌也

私は現在 71 歳です。東京都立小石川高校数学科教諭を 60 歳で定年退職しました。

私は昭和 28 年に表題の課程(俗に数学科と言っていました)に入学しました。当時数学科は5人の入学でした。入学試験に合格したあと身体検査があり、今では想像も出来ませんが、検査官の前で下半身素裸になり、陰茎と尻の穴を検査されました。

私が大学2年生の時、数学科も大学祭に参加しました。私は大宮の氷川神社から大きな算額を借りてきて展示しました。算額とは和算家が解いた問題や考案した問題を絵馬にして神社仏閣に掲げたものです。数学科の有志で全問を解いて冊子を作り、学生や先生方に配布しました。私の手元に現物が一冊だけ残っていますので数学科に寄付しましょう。

また私のクイズを作りました。

「S. AITAMA+D. AIGAKU=M. ATSURI

ローマ字はそれぞれ0から9までの異なった数を表す。それらを求めよ。」

皆さんも挑戦してみてください。

私が大学3年生の時、数学科の機関紙を発行することを提案しました。当時はワープロもパソコンもコピー機もなかったのもので、全部ガリ板刷りでした。表題は意見百出で中々決まらず、結局は岩波の数学辞典をランダムに開いて、最初の単語を表題にすることにしました。それが「矛盾」と決まった理由です。残念ながら当時の物は全く残っていません。

30年後の劣等生

理工学部第3期生 村本 洋一

昭和 42 年、埼玉大学が大久保に移転の最中に入学した。1年次の一般教養などは全て北浦和駅前の常盤キャンパスであった。また、全学連を中心とする学生運動が華々しく弾けた年であり、多かれ少な

かれ、あの当時の埼大生でその影響を受けなかった者はいなかったであろう。

私も案の定その渦に飛び込むことになり、きちんと講義に出たのは5月くらいまでであったと思う。「埼玉大学」という言葉は、私にとっては「学生運動」「アルバイト」と同義語であって、特に「単位を落とした」「追試」という不名誉な烙印と重なるのである。これは社会人となっても長いこと悪夢にうなされて夜中に目が覚める原因となっていた。そんな私が5年で卒業ができたのは、何と云ってもO助教授の存在と、献身的に追試の指導してくれたM生、I生、H生のおかげである。つまり、私は埼大開闢以来の「劣等生」というわけなのだ。しかし現在まで、東京都の中学校教員として曲りなりに社会的な責務を果たせたとするならば、学生時代の成績では人生は決まらなると言いたい。教育心理だったか、劣等生の私は教授に恐る恐る聞いたことがある。「成績が、良い教師の条件ですか」「人柄だと思ふよ」あの一言にはとても救われた。

数学科での思い出

理学部第2期生 吉野 深雪(旧姓岡野)

埼玉大学理学部数学科に入学してきた学生がここを選んだ理由はいろいろとあったには違いありませんが、現在のシステムと違い一期校・二期校の時代ですから一期で撃沈してという類はとて多かつたような記憶があります。入学して間もなくの頃、学科の先輩方が主催してくださった歓迎会の席で、泣きながら『都の西北』を歌っていたクラスメートなどもおりました。そのような私たちですから住めば都というもの少しひがんでいるような面もあったようです。そんな中でクラス担任制が敷かれ、私たちの代は奥村先生が担任となってくださいました。大学のバスを利用して飯能寮へ行き、みんなで食事を作って多いに飲み、話に花を咲かせました。しばらくぶりの寮利用で、ガスをひねると突然炎が燃え上がり睫毛が焼けてしまったりいろいろなアクシデントがありましたが、とても楽しいひとときでした。その後、これがきっかけになったのか毎年一度はクラス旅

行をするようになったのです。一度などは免許取り立ての車に分乗して出かけ、間一髪バスとの追突をまぬがれたりなんていう怖い思いもしましたが、『奥村組』のようなノリで4年間を過ごしました。このクラス制という素敵なシステムを提供していた大学にも感謝ですが、奥村先生が担任をしてくださったことが楽しい4年間を私たちが味わえた大きな要因であろうと思います。

$\epsilon - \delta$ に、高校での数学との決別を感じながらも、気がつくとなんかそれぞれが埼玉大学に自分の居場所を見つけ、有意義な日々を送り始めていました。さて、大学生という入学することが目的でその後はさっぱり勉強をせずなどと言われるのは今も昔も変わりません。ところが私たちの代は、クラスメートの発案で『ルベーグ積分』の勉強会をしようと一年生の時から自主ゼミを始めました。神田の古本屋で本を見つけてというような経験も、出身地の千葉からほとんど出たことのなかった私にとってはとても新鮮です。いつ頃からか、レポーターがゼミの参加者に「発表を聞いてくれてありがとう。」の気持ちでお菓子を用意したり、だんだん楽しみの世界になっていきました。

理学部にあって数学科は特に必修科目が多い学科です。かなりの時間をクラス単位で過ごしていました。新井先生の数学演習の考査で土曜日の午後いっぱいを使っての「無制限一本勝負」。何を見ても、どこで調べてきても o.k.。条件にあった問題を自分で作って解答するようなものですが、とても懐かしい思い出です。4年生になるととる科目も少なくゼミが中心となります。3年生の後半に希望をとり数学科の掲示板に1回目の希望調査結果が張り出されました。それを見て自主調整。私は解析学に興味を持っていたので辻岡邦夫先生のゼミを希望していました。確か、最初はもう少しのような気がしますが、結果的には私を含めて3名の学生が辻岡先生のゼミに所属することになりました。3人だと発表の順番がすぐに回ってきます。いつだったか、行間に不安を抱えたまま発表すると先生がつまらなそうにウトウトとされています。自信を持っての発表でなければだめなんだと3人で話し、一生懸命に予習をしたものです。先生のお子さんが作ってくれたクッキーをゼミ終了後にごちそうになったり、クリスマスの頃にサンタさんに扮して先生のお宅にお邪魔したり、奥様を初めとしてご家族とも親しくさせていただき、私にとっては大変貴重な財産となりました。卒業を迎え、ゼミの終了を記念して渋谷のロゴスキーで会食したのが、辻

岡ゼミ同窓会設立の発端です。毎年5月に顔を合わせ『5月の会』と称して現役ゼミ生が企画するようになりました。これも先生のお人柄のおかげだと感謝しています。

このように、私にとっての埼玉大学理学部数学科での4年間は人との出会いに尽きると思います。多くの素晴らしい先生方と仲間たちに囲まれ、素敵な日々を過ごすことができました。こうして高校の教員となって大学に学生を送り出す立場になると、卒業生が充実した学生生活をおくって欲しいと自分の学生時代を思い出しながら考えます。それぞれが記念すべき出会いをし、自分の居場所を作って欲しいと思うのです。私にそれを与えてくれた理学部数学科に乾杯！

学生時代あれこれ

理学部第7期生 後藤 亨

私は、昭和57年4月に入学し、昭和62年3月に卒業しました。恥ずかしながら、入学までに2年間浪人しましたので、合格したときには嬉しさとともに、これで受験勉強から開放され数学の勉強ができるという安堵感がありました。

私が在学中最も影響を受けた先生は新井先生で、2年の春休みから卒業まで1対1でセミナーを指導していただきました。セミナーの後、よく呑みに連れて行っていただきましたが、今思うと本当に楽しい時代であったと思います。4年のセミナーでは、宮崎功先生のご指導を受けることにしました。

それは、多様体を基礎から勉強したかったからですが、先生は私のくどい話に付き合ってください、あの時期にじっくりと考える時間を与えてもらったことは、私にとってとても大切なことであつたと改めて感じます。思い出は尽きませんが、昔ならではの授業風景(?)を記しておきます。トポロジーのM先生の位相空間論の授業のこと。先生は20分ほど遅れて教室に来ました。走って来たのでしょうか、ハアハア言っていました。そして、開口一番「ちょっと、一服吸わせてくれ」と言って、黒板の前で煙草を吸い始めました。学生はみな笑っていましたが、これなども現在の大学では考えられない光景でしょう。

会計報告

1.収入の部

項目	摘要	金額	備考
寄付金	寄付金	466,000円	
合計		466,000円	

2.支出の部

項目	摘要	金額	備考
通信費	切手・葉書	128,895円	
事務用品	文房具	1,710円	
その他の事務費	その他の事務費	3,675円	理事連絡用メールアドレス維持費等
合計		134,280円	

3.収支決算

総収入	466,000円
総支出	134,280円
残金(次年度へ繰越)	331,720円

注) 懇親会の費用は含まれません

7月3日までの費用の清算です

寄付者一覧

同窓会を立ち上げるに当たって、寄付を頂きました。有り難うございます。付帯決議に従って、会費に充当させて頂きます。7月5日現在の寄付者の一覧です。敬称は略します。これ以降の寄付者は次回に紹介しません。

文理学部

(第3期生)大村 佐登, 遠山 安夫, 山村 富太郎, 甲斐 賞美(第5期生)太田 晶也, 川野 克己(第6期生)新井 慶蔵, 今野 淑, 渡辺 宏延(第7期生)原田 文夫, 茂木 文男, 守田 貞優吉岡 武彦(第8期生)林 節子, 奥野 俊直, 久保田 勝也, 新井 和子(第9期生)浅井 邦彦, 今城 恒雄, 近藤 師昭, 近藤 幸吉 (第10期生)鶴沢 正勝, 柏木 敏郎, 崎山 茂, 菱沼 弘, 都築 正信, 木村 紀久雄(第11期生)久保田 秀三郎, 鈴木 敏弘, 兵頭 利明, 吉沢 金三, 飯島 祥佐 (第12期生)榎田 嗟記, 藤井 くに江, 福井 誠一 (第13期生)新井 理生, 大沼 正彦, 八頭後 正幸 (第14期生)田島 勲, 尾崎 哲男, 山崎 晴司, 椎葉 文枝, 山崎 幹子 (第15期生)岩崎 史郎, 田中 達治, 三橋 文雪, 向井 忠彦(第16期生)池原 脩一, 大橋 憲昭, 坪井 道雄, 山崎 和郎

理工学部

(第1期生)麻生 正道, 古宮 誠一, 佐竹 久典, 田中 利明, 光 道隆, 藤井 雅一, 松田 利道(第2期生)秋山 真兄, 岡本 明, 小沢 繁樹, 佐藤義隆, 藤野 悦道, 牟田 正憲, 両角 秀人(第3期生)今井 昭, 飯塚 浩, 川島 久雄, 神津 重人, 清水 徳雄, 申 勝白, 鈴木 直義, 田子 英二, 長 兼史郎, 林 実樹広, 村本 洋一(第4期生)柴田 厚治, 佐藤 正芳, 滝口 正晴, 谷川 正樹, 松下 茂, 睦路 正昭, 盛岡 光雄(第5期生)吉田 啓子, 佐々木 孝, 高木 孝次, 照山 敬一, 林 俊和, 森 正明, 吉田 正雄(第6期生)安部 洋, 勝丸 健司, 露峰 茂明(第7期生)田中 賢治, 高橋 勲, 佐藤 秀夫, 森 典之(第8期生)永野 将己, 今西 貞雄, 内野 正行, 梅村 克則, 北川 良三, 竹野 敦, 中村 博光, 吉田 信介(第9期生)会田 睦晃, 榎木 勝弘, 高橋 一雄, 成田 希世子, 西沢 久夫, 三浦 美朗(第10期生)大音 雅克, 岩波 和美(第11期生)青木 一雄, 石井 正人, 原口 利雄

理学部

(第1期生)鳥井 新人, 石島 昇明, 小水内 俊彦, 佐藤 英雄, 野口 勝実, 長谷部 武, 吉田 伸昭(第2期生)坂口 富雄, 新山 正人, 酒寄 仁(第3期生)鹿島 忍, 佐藤 隆幸, 柴崎 敦, 依田 文一(第4期生)護堂 浩之, 押井 信, 田端 浩幸(第5期生)葭葉 純子, 杉本 吉彦, 鈴木 昭夫, 田中 茂, 藤井 千聡, 新井 光幸(第6期生)春田 章子, 石田 和久, 奥山 幸治, 加藤 剛, 木内 博文, 大同 久志, 川浦 美佐子, 渡辺 祐子, 池田 薫, 種田 裕一(第7期生)後藤 亨, 岩崎 博行, 高橋 広恵, 角谷 敦(第8期生)登山 丈志, (第9期生)荻野 祐子, 中村 千佳子(第10期生)竹馬 和彦, 勝又 新治, 両角 希美代, 安田 紀子, 両角 清志(第11期生)伊藤 和重, 平野 厚子(第13期生)滝口 孝志, 大村 武彦(第14期生)柳澤 知映, 福井 生, 安保 広達, 須永 秀治, 村上 健一(第15期生)高風 栄雄, 松本 政美, 高 始徳(第16期生)安川 優(第17期生)野田 裕昭, 中山 功(第18期生)金子 恵美子(第21期生)濱 吉克, 日向 利匡(第22期生)山口 恵史, 丹下 大輔, 松原 史代, 本郷 卓(第23期生)伊藤 紀正(第24期生)谷口 徹博

編集後記

7月に総会が開かれました。創刊号は出来るだけ早く出そうという事で、夏休みの8月初旬に第1回の編集会議を開きました。幸いに、原稿を依頼された方たちも快く引き受けてくださって、ここに創刊号を発行することができました。感謝しております。